

## 令和2年度 シラバス

科目名	マクロ経済学 I	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Macro Economics I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	ふかさわ やすお	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	深澤 太郎	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
授業のテーマ	マクロ経済学基礎を学びます。 副題：日本の GDP の 2021 年度の実質成長率の予想は？				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本経済の経済指標等の実際のデータに基づき、マクロ経済学の基礎知識が習得できる。 2. その上で、日本の GDP の 2021 年度の実質成長率等の予測を、算出できるようになる。 3. 上記により、日本経済新聞の経済関係の記事の理解度が、大幅に上昇し、社会人と求められる水準に届く。				
授業概要	受講者数にも左右されるが、理想としては、事前に教科書、参考資料に目を通させ、授業中には可能な限り、各項目についての質問を行いたい。経済指標等のデータに基づき理論を確認し、基礎知識を取得した上で、自ら考える姿勢を身につけさせたい。				
授業計画					
第1回	マクロ経済学とは何か？日本経済の現在の立ち位置、決定的な人口問題				
第2回	国民経済計算 (GDP 統計) の考え方・使い方 (内閣府の HP のデータからグラフ作成)				
第3回	各種経済統計の使い方 (IMF 統計、金融、物価、貿易、労働核関連統計からグラフ作成)				
第4回	現在の世界経済の概観、マクロ経済モデルの基本的な考え方、数学的な基礎 (数列、ネピアの e、対数等)				
第5回	GDP とは何か (生産=所得の概念)				
第6回	GDP とは何か (生産=支出の概念)				
第7回	名目値と実質値 (デフレーターとは？ 交易利得の概念と、GNI と GDP の関係)				
第8回	金融市場 金利と株価 (現在価値の考え方、スポットレートとフォワードレート、PER について)				
第9回	金融市場 外国為替レートと物価① (外国為替レートと購買力平価)				
第10回	金融市場 外国為替レートと物価② (物価と金利の関係)				
第11回	閉鎖経済の短期モデルの展開① (短期モデルに基本的な考え方と乗数効果のメカニズム)				
第12回	閉鎖経済の短期モデルの展開② (財市場の数量調整と貨幣市場の需給調節)				
第13回	閉鎖経済の短期モデルの展開③ (IS-LM モデルにおける財政・金融政策と右下がりの需要曲線)				
第14回	経常収支と純投資と国民貯蓄の関係 (政府の巨額財政赤字によって、危い状態が続く日本経済のマクロバランス)				
第15回	2021 年度の実質 GDP 成長率の経済予測				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	テキストの該当箇所は事前に通読し、疑問点があれば質問すること (1 時間)。 毎回ではないが、小テストを行うので、確認のための復習をすること (1 時間)。				
履修条件 受講のルール	2年前期には、マクロ経済学Ⅱを受講すること。可能ならば、関数電卓を持参すること (授業のなかで、使用場合があります)。 <b>教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。</b> 受講者の理解度等を考慮して、シラバスを変更する場合があります。				

テキスト	全般：「父が息子に語るマクロ経済学」 斎藤誠（勁草書房、2014年）、 第10～12回授業：「マクロ経済学（有斐閣、2016年）」 斎藤誠ほか3名の「第6章 閉鎖経済の短期モデルの展開」
参考文献・資料	第3回授業「金融危機の本質シリーズ 補足数学簡単解説 I」 深澤泰郎 第7回授業：「金融商品情報（一口知識）（1）スポットレートとディスカウントファクター、同（2）フォワードレートについて」 深澤泰郎 第14回授業：「日本経済と財政危機の本質シリーズ5 アベノミクスは間違った振り、本当は狙い通り！」 深澤泰郎 その他、授業前に配布するペーパー
成績評価の方法	質問に対する回答状況等；20%、小テスト：30%、試験（またはレポート）：50% <b>出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。</b>
オフィスアワー	後日掲示にてお知らせします
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
実務経験及び実務を活かした授業内容	長年、金融機関、学校等で投資家として長期投資を行ってきました。その中で、市場の長期予想を行ってきましたが、日本経済の先行きはかなり暗いと思います。ただ、マクロ経済としてはあまり良くないとしても、皆さんのような若者が、個人としてその状況下で生き抜く方法はあるはずで、そのことも授業の中でお話ししたいと思っています。
学生へのメッセージ	マクロ経済学は、日本経済を理解するための必須のツールです。そして日本経済を理解していることが、社会人として求められます。

## 令和2年度 シラバス

科目名	<b>人間関係論</b>	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Human Relations	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	にしまさき じょうじ	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	西巻 丈児	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	人と人との関係に基づいて、人間のふるまいや生活のさまざまな現象を見ていこうというアプローチが、人間関係論である。このアプローチは、以前から企業経営の政策に取り入れられたり、看護の現場で実践されたりしてきている。こうした研究成果を踏まえて、さまざまな他者との協同作業や合意形成と、自分が巻き込まれている人間関係を築いていくための態度や能力を身につけることができるようになる。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの研究成果としての「人間関係論」を説明できる。</li> <li>・人間関係のつながりについて説明できる。</li> <li>・「自分とは何か」について考える視点を養うことができる。</li> </ul>				
授業概要	授業では、これまでの「人間関係論」の研究成果、つまり経済活動の中で生じる人間関係の研究と、看護の現場からの対人関係理論を概観し、人間関係やコミュニケーションの仕組みを解明していく。その後、自分が否応なしに巻き込まれていた、これからも巻き込まれていく「家族」と「自分自身」の関係を基にして、人間関係を考察していくことにより、よりよい人間関係を構築していくための態度や能力を学んでいく。そしてその過程を経ることにより、自己理解と他者理解の両面を考えていく。 また、「人間関係」を「自分の問題」として考えられるよう、ドキュメンタリー映像やさまざまな資料をふんだんに交えながら授業を進めていく。				
授業計画					
第1回	イントロダクション - 「人間関係論」とは何か-				
第2回	人間関係が生ずる淵源				
第3回	人間関係的管理アプローチ - ホーソン実験から見えてくるもの-				
第4回	「モラル」と「モラル」について				
第5回	対人関係理論 - ペプロウ看護論から浮かび上がってくるもの-				
第6回	社会科学研究アプローチについて				
第7回	倫理学的研究アプローチについて				
第8回	生き方の自己決定から見えてくる人間関係				
第9回	「家族」の自己決定(1) - 女性の権利の問題について-				
第10回	「家族」の自己決定(2) - 資源としての卵子・受精卵・胎児・新生児-				
第11回	「家族」の選択(1) - 脳死と臓器提供の問題について-				
第12回	「家族」の選択(2) - 売られる臓器・買われる臓器-				
第13回	「家族」の役割(1) - 生と死の判定をめぐって-				
第14回	「家族」の役割(2) - 自分のいのちは自分のものか-				
第15回	本授業の総括				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	予習：(1.5時間程度) 授業の内容は連関しているので、毎回、配布する資料を復習しておき、前の回までの内容を自分なりに考えて授業に臨むようにすること。 復習：(1.5時間程度)				

	毎回配布する資料に参考文献を記載するので、復習する際にはそれも参考にすること。
履修条件 受講のルール	予習・復習を必ずして、積極的に授業に参加すること。
テキスト	特に指定はしない。授業中に毎回配布するプリントが教科書の代わりとなる。 また、パワーポイント、映像資料や文字資料も使用する。
参考文献・資料	授業内で適宜指示する。
成績評価の方法	毎回提出してもらおうリアクションペーパーによる理解度（45%）、定期試験（55%）を総合的に評価する。 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金が未納の場合は試験を受けることができません。 また、欠席、遅刻、私語、居眠り、無断退出等については減点の対象とする。
オフィスアワー	月曜日 10:40～12:10 火曜日 10:40～12:10 事前連絡があれば、上記時間の他にも可能性あり。
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下）
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	生まれた瞬間から否応なしに巻き込まれているさまざまな人間関係について、改めて見直してみましよう。自己の気づきを他者とのコミュニケーションに活用し、実際の場面に活用できるよう身につけて、社会人への成長段階を、実感してみましよう。

## 令和2年度 シラバス

科目名	ミクロ経済学 I	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
			学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	
英文表記	Microeconomics	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	あらはた かつみ	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	荒幡 克己	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
授業のテーマ	価格と市場の動きは、経済学の基礎の第一歩です。焦らずにじっくりと学んでいきます。				
到達目標	本講義受講後は、日経新聞第18~20面の商品・マーケットの解説が深く理解できるようになります。				
授業概要	まずは、数式を用いずに、グラフにより丁寧に説明していきます。次に、日本経済新聞の記事を引用しつつ、実際に問題を解いてみます。キュウリの需要と価格の動き、化粧品の値下げとカネボウ、資生堂の競争等も学びます。授業計画の第14回目に出てくるディズニーランド乗り物の料金設定は、実はこれをテーマにした論文でノーベル経済学賞を受賞したアメリカの経済学者もいる、興味深い研究分野なのです。				
授業計画					
第1回	価格と売りゆき、価格と消費者行動:身近な話題から経済学の原理を知る				
第2回	需要曲線と供給曲線を描く:その傾きの意味=弾力性				
第3回	需要曲線と供給曲線のシフト				
第4回	上限価格規制と下限価格規制、数量統制				
第5回	費用曲線:変動費、固定費、限界費用曲線、損益分岐点				
第6回	短期と長期の企業行動と消費者行動				
第7回	生産者余剰と消費者余剰				
第8回	中間テスト				
第9回	要素市場				
第10回	効率性、公平性と厚生経済学の基本定理				
第11回	完全競争と独占市場				
第12回	寡占市場とクールノー競争、ベルトラン競争				
第13回	独占禁止法、ハーフィンダール指数				
第14回	価格差別と抱き合わせ価格、ディズニーランドの乗り物価格設定				
第15回	復習				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	日本経済新聞の第18面、または20面あたりの「マーケット・商品」の欄に、商品別の市場動向が掲載されています。これを読んで、疑問に思うところを授業終了直後、オフィスアワー等に質問してください。ミクロ経済学への理解が深まります。				
履修条件 受講のルール	経済学入門を履修していることを前提として講義を進めます。テキストに沿って講義を進めるので、必ず購入してください。なお、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。				
テキスト	ポール・クルーグマン「ミクロ経済学」(ミクロ経済学I、ミクロ経済学IIともに同じテキストです)				
参考文献・資料	グレゴリー・マンキュー「ミクロ経済学」:外国テキストの方が優れ、話題も豊富で、読んで楽しいようにできています。				

成績評価の方法	<p>平常点 30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%をおよその目安として、総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・授業の理解、および予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行います。</li> <li>・レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。</li> </ul>
オフィスアワー	<p>担当科目がない曜日の第 5 時限の時間帯  ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。</p>
成績評価基準	<p>平成 28 年度（2016）以降入学した学生  秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)</p> <p>平成 27 年度（2015）以前に入学した学生  優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)</p>
実務経験及び実務を活かした授業内容	<p>農林水産省で米需給等を担当した経験があります。これを生かして講義していきます。</p>
学生へのメッセージ	<p>ミクロ経済学は、マクロ経済学も含めたすべての経済学分野の土台となる学問領域です。理論や数式から学ぼうとすると、無味乾燥でつまらない分野ですが、新聞記事など実例から学ぶと興味が湧き、しかも楽しく学べます。是非、実践的に役立つように習得してください。</p>

## 令和2年度 シラバス

科目名	教育学入門	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Introduction to Pedagogy	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	いちはら みつまさ	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	市原 光 匡	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	教育学の基本的な知識と考え方を修得し、自ら考える力を習得することを目指す。				
到達目標	1. 教育の歴史と公教育制度の成立のあらましを理解し、説明ができること。 2. 近現代の教育をめぐる思想を理解し、それぞれの区別ができること。 3. 教育学の研究枠組みを理解し、説明ができること。				
授業概要	学問分野としての教育学を理解するにあたって、現代社会における教育の現状と課題を概観し、教育の役割を確認しながら教育学の研究方法に触れる。また、近現代の教育思想をふり返り、現代の教育を考える示唆を得る。				
授業計画					
第1回	オリエンテーション				
第2回	教育とは・教育の目的とは				
第3回	教育問題を考える (1) いじめ				
第4回	教育問題を考える (2) 不登校				
第5回	教育問題を考える (3) 体罰と生徒指導				
第6回	教育問題を考える (4) 学力問題				
第7回	教育問題を考える (5) 家庭教育				
第8回	近代教育の思想の形成 (1) 西洋の近代教育思想 (教育史・教育哲学)				
第9回	近代教育の思想の形成 (2) 日本の近代教育思想 (教育史・教育哲学)				
第10回	近代教育思想の制度化 (1) 海外の教育制度史 (教育制度論)				
第11回	近代教育思想の制度化 (2) 日本の教育制度史 (教育制度論)				
第12回	近代教育の超克 (1) 新教育思想 (教育哲学・教育方法論)				
第13回	近代教育の超克 (2) 生涯教育論 (生涯学習論・社会教育学)				
第14回	現代の学習理論 (教育方法論)				
第15回	現代教育の問題とは (その他の研究領域)				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	現代の教育をめぐる問題に関心に向け、自分なりの考えを主張できるようにしておきたい(1.5時間程度)。また復習として、授業で取りあげる教育学の研究分野ごとにその研究方法や研究の意義などをふまえておくこと(1.5時間程度)。				
履修条件 受講のルール	特になし。				
テキスト	テキストは特に指定しない。なお、授業のレジュメ(要約)のプリントを配布する。				
参考文献・資料	小川正人・森津太子・山口義枝〔編著〕『心理と教育を学ぶために』放送大学教育振興会、2012。				
成績評価の方法	平常点30%、定期試験70%の比率で評価する。 平常点については、受講態度・話し合い等への参加状況を勘案する。				

	・ 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。
オフィスアワー	掲示板でお知らせします。
成績評価基準	【平成 27 (2015) 年度以前に入学した学生】 優 (100～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下) 【平成 28 (2016) 年度以降に入学した学生】 秀 (100～90 点)、優 (89～80 点)、良 (79～70 点)、可 (69～60 点)、不可 (59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	学生にははじめて耳にする語句や概念もあることと思われる。それらを理解することももちろん重要だが、それよりも教育学の研究分野やその研究方法・意義の理解に重点を置く。授業でも学生同士議論する機会を多く設けるので、積極的な参加を期待している。



## 令和2年度 シラバス

科目名	自然科学概論Ⅱ	科目分類	<input type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input checked="" type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			全学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Natural Science I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input checked="" type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	むらなか たかし	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	村中 孝司	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	宇宙、太陽系・地球、日本列島の特色について概観し、自然科学の本質と学問的な特色、科学的方法と論理的思考について修得する。自然現象への理解を通して、科学的な考え方を身につける。				
到達目標	① 日本列島の自然や地球、宇宙空間など様々なスケールでの自然の成り立ちを概観し、生多様な自然現象の要因を探るとともに、人間社会との結びつきを理解する。 ② 自然科学および広く学問の成り立ちや歴史を理解し、これまで生み出されてきた自然科学の法則の背景に迫る。 ③ アジアとヨーロッパの自然に対する見方・考え方を比較し、自然、自然破壊、自然保護、環境保全に対する人々の考えを理解し、東洋と西洋の学問的発達の違いを見出す。				
授業概要	宇宙、太陽系、地球の進化、日本列島の自然、科学的方法について論じる。				
授業計画					
第1回	ガイダンス	自然科学とは何か			
第2回	宇宙の進化	古代の宇宙論から現代の宇宙論へ、宇宙の誕生と光・重力・物質			
第3回	元素と物質の誕生	恒星のエネルギー源、元素、時空間の移動			
第4回	太陽系と地球、日本列島の自然	恒星系、太陽系、地球、地震と火山			
第5回	日本の森林	日本の森林の豊かさ、自然景観と名所、新緑・紅葉、原生林と二次林			
第6回	日本の里山	二次的自然、里山からの恵み、自然と人間との関わり			
第7回	日本の川	急流河川、山から海へ、回廊としての川、川からの恵みと農業の発達			
第8回	自然科学の誕生と歴史	自然学から近代自然科学へ、科学の大革命と近代自然科学の誕生			
第9回	科学の方法	論理、演繹と帰納、観察と実験、主観と客観			
第10回	科学的仮説と発見の論理	アブダクション、仮説の発見、問題の発見			
第11回	情報の分類	分類、元素の周期表、二名法、学名			
第12回	情報の収集と分析	標本抽出、比較、平均と標準偏差、原因と結果			
第13回	科学研究の成果	論文とはなにか、科学的な説明の方法、成果の公表			
第14回	自然観	自然に対する人間の考え、西洋と東洋の自然観			
第15回	農耕の起源と伝播	自然と人間生活、根栽農耕文化			
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	自然界をよく観察すること。予習1時間、復習1時間程度必要。				
履修条件 受講のルール	適宜資料を配布しますが、欠席した学生には配布しません。				
テキスト	講義中に紹介する。				
参考文献・資料	濱田嘉昭『科学的探求の方法』放送大学教材				
成績評価の方法	試験(70%)、レポート・課題提出・小テスト(30%) 上記評価項目を基にして総合的に判断します。				

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、欠席扱いとします。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。</li> <li>・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。</li> <li>・レポート課題は授業内又は掲示板で指示します。</li> </ul>
オフィスアワー	火曜 14:40～16:10、水曜 14:40～16:10
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度以降入学者 秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)</li> <li>・平成 27 年度以前入学者 優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)</li> </ul>
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	科学を探究する能力を養いましょう。

## 令和2年度 シラバス

科目名	<b>流通論入門</b>	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	□必修	■選択
			学科	□必修	□選択
英文表記	<b>Introductory of distribution</b>	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
担当者名	野口 秀行	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	流通の社会的な役割を、商品の生産と販売、権利の移転、情報の視点から学習します。				
到達目標	近年変化著しい流通の基本を学習するとともに、今後の流通業の変化を見通します。				
授業概要	流通の事例紹介に傾注しすぎることなく、流通の仕組みや制度、理論を考えます。				
授業計画 講義資料と教科書を併用して授業を進める。					
第1回	流通の主体とその役割、生産と消費、流通の機能。青谷上寺地弥生遺跡で発掘された中国の銅銭と流通				
第2回	小売業の上位集中、ICT進化の効果 世界各国の小売業の寡占化と批判				
第3回	経済発展と流通業の垂直的分化・統合 勝ち組と負け組がどうして生まれる				
第4回	小売業のトレンド：小売業の変容と再活性への道				
第5回	マーケティング（1）マーケティングとは何か				
第6回	マーケティング（2）SWOT分析				
第7回	行動経済学とマーケティング（1）				
第8回	行動経済学とマーケティング（2）				
第9回	タイムサービスとYahoo!オークション				
第10回	デジタル時代の小売業				
第11回	事例分析：ザップスとCEOトニー・シェイ				
第12回	小売りの各業態と競争、チェーンストアの優位性 業態転換と業態のミックス				
第13回	ドミナント出店戦略、小売業の製品と自社ブランド化の限界				
第14回	日本の流通の課題と展望および総括（1）				
第15回	日本の流通の課題と展望および総括（2）				
第16回	定期試験				
授業時間外の 学習	予習復習の徹底、事前配布のプリントに目を通しておくこと				
履修条件 受講のルール	なし。				
テキスト	プリント配布				
参考文献・資料	追って連絡します				
成績評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。 出席回数が規定に満たなかった場合、その他納入金未納の場合は試験を受けることができません。				
オフィスアワー	火曜日午後及び水曜日全日				
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 平成27年度（2015）以前に入学した学生				

	優 (100~80点)、良 (79~70点)、可 (69~60点)、不可 (59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	流通業は、小売業の寡占化の進展と批判、ICTの活用による物流コストの低減など今最も変化が著しい産業です。

## 令和2年度 シラバス

科目名	人的資源管理論	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Human Resource Management	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	いしかわ まさはる	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	石川 雅敏	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
授業のテーマ	企業における人的資源管理の諸制度を知り、その運用を理解する。				
到達目標	企業における人的資源管理に関する一般的な知識を修得します。 この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1) 人的資源管理のための諸制度を学べます。 2) 企業の人的資源管理で重要なポイントを理解できます。				
授業概要	人的資源管理の入門書を用いて、企業がどのように人材を育成し、マネジメントしているかについて基礎知識を解説します。				
授業計画					
第1回	イントロダクション 人的資源管理論で学ぶこと。				
第2回	経営資源としての「ヒト」				
第3回	人的資源管理論の歴史				
第4回	採用管理				
第5回	評価・報酬管理				
第6回	職能資格制度と賃金制度				
第7回	成果主義				
第8回	異動・昇進管理				
第9回	出向・転籍				
第10回	人材育成				
第11回	労働時間				
第12回	退職・解雇				
第13回	安全・健康に関するマネジメント				
第14回	情報管理に関するリスクマネジメント				
第15回	まとめ				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	授業前には教科書の該当箇所には必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(1時間程度)				
履修条件 受講のルール	経営学基礎論を履修している事が望ましい。				
テキスト	「人的資源管理」安藤史江、新世社(2008)				
参考文献・資料	なし				
成績評価の方法	小テスト(20%)、レポート(30%)、定期試験(50%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。				

	レポート課題は授業内で指示します。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日 15:00~17:00 *これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は製薬会社でバイオ医薬品の開発などの実務に携わってきました。この授業を通して組織が人的資源をどのように管理しているかについてお話したいと思います。
学生へのメッセージ	NHKの「チコちゃんのポーと生きてんじゃねえよ」に「働き方改革」のコーナーがあるように、企業における人的資源管理は大きく変化しています。一緒にこれからの企業における人的管理を学びましょう。

## 令和2年度 シラバス

科目名	<b>国際経済学 II</b>	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	International Economics II	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	坂元 浩一	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	国際経済学の歴史と政策を学ぶ。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。 1. 日本の国際経済取引の全体と主な活動(貿易と投資)を十分に理解できるようになります。 2. 世界経済や主要国の経済の動向を知ることができます。 3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。				
授業概要	本講義は国際経済学 I を踏まえて開講されます。国際経済取引の主な構成要素の続きとして、外国直接投資や証券投資の理論を中心に説明します。その後に、国際経済の歴史と制度・政策、そして経済協力を扱います。さらに、日本に加えて他の事例国を挙げて説明します。証券投資については、別の科目である国際金融論で詳しく扱うので、本講義では基本的な内容となります。教員が訪問した国における実体験も交えながら、解説します。				
授業計画					
第1回	イントロダクション (主な内容、アプローチ)				
第2回	外国直接投資 (FDI) (基礎事項とトレンド)				
第3回	外国直接投資 (FDI) (理論)				
第4回	外国直接投資 (FDI) (制度)				
第5回	外国直接投資 (FDI) (政策)				
第6回	金融の基本				
第7回	証券投資 (基本のみ。詳細は国際金融論で扱う)				
第8回	国際経済制度				
第9回	国際金融制度				
第10回	主な国際経済・金融政策				
第11回	世界金融危機後の動向と今後の方向				
第12回	経済協力				
第13回	事例国： 中国など新興国				
第14回	事例国： 東南アジアなど発展途上国				
第15回	事例国： 貧困国 (アフリカなど)				
第16回	定期試験				

授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。(1時間程度) 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)
履修条件 受講のルール	国際経済学Ⅰ、ミクロ経済学、そしてマクロ経済学を履修していることが望ましいです。
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総理解から次の一歩まで—』(電子書籍) 大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』 大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』 頸草書房、1996年。 Sakamoto Koichi, <i>Japan and China: A Contest in Aid to Sub-Saharan Africa</i> , World Scientific, 2018.
成績評価の方法	【小テスト・レポート(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であることを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。
オフィスアワー	毎週月曜日・金曜日 14:50~16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると思います。



## 令和2年度 シラバス

科目名	<b>社会保障論</b>	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
			学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	
英文表記	Social Security	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	ふじもと つよし	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	<b>藤本 剛</b>	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	社会保障制度の基本を理解し、公的年金、企業年金、公的医療保険、公的介護保険等の現状と課題を考えます。				
到達目標	将来に向けて、現行の諸制度を踏まえて何が求められているのか、考える力、考える姿勢を身につけましょう。				
授業概要	20歳になると、学生であっても国民年金の保険料を納める義務が生じます。特例制度の適用申請を行って、納付を先延ばしした人もいます。老後や障がいにも備えた保障の準備は国民に求められています。病気やけがに対する備えも同様です。社会保険のシステムを用いた社会保障制度は国民の豊かで健やかな生活の実現を目指しています。制度は複雑で変化も大きいですが、現状は？将来は？さまざまな課題がある中で、私たちの将来を共に考える科目です。				
授業計画					
第1回	社会保障とは何か。歴史的に形成された過程や背景をたどり、現在に至る流れを考えます。				
第2回	社会保障の体系を明らかにし、その中心となる社会保険について基本的な理解を深めます。				
第3回	社会保険の具体的な例として雇用保険を取り上げ、その仕組みについて理解します。				
第4回	代表的な社会保険のひとつである公的年金制度の基本的な仕組みを学習し、国民皆年金制度の理解を図ります。				
第5回	わが国の公的年金制度がたどってきた変遷を、歴史を踏まえて考えます。				
第6回	わが国の公的年金制度の現状と課題について、考察します。				
第7回	公的年金制度とリンクして制度化されている企業年金について、その仕組みや役割を考えます。				
第8回	企業年金の中でも確定拠出型年金（日本版401K）や、最近話題のイデコなどについて取り上げます。				
第9回	わが国の医療保険制度について、国民皆保険のベースとなっている保険診療と診療報酬のしくみを取り上げます。				
第10回	職域をベースとする健康保険の仕組みと課題を考えます。				
第11回	地域をカバーする国民健康保険制度の現状と課題を考えます。				
第12回	医薬品について保険との関係やジェネリックなどにふれ、また近年拡大しているDPC(包括払い方式)を概観します。				
第13回	公的介護保険制度の概要を捉え、導入に至った経緯を明らかにします。				
第14回	公的介護保険の現状と課題について考えます。				
第15回	地域包括支援制度について考えます。				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	新聞に載る年金や医療関連の記事に目を通し、記事で取り上げられている内容の理解に努めてください。ネットを利用するのも一つの方法です。出席カードへのメッセージなど、歓迎します。				
履修条件 受講のルール	特にありませんが、関心をもって受講してください。				
テキスト	プリント、パワーポイント、ビデオなどを使用します。				
参考文献・資料	公務員Vテキスト『社会政策』第12版 TAC出版 『厚生労働白書 各年版』厚生労働省				
成績評価の方法	試験(50%)、レポート・ビデオの感想・意見等(30%)、受講態度(20%)				

	※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の金額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日の12時～13時 木曜日の18時～19時
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度以降入学者 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</li> <li>・平成27年度以前入学者 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</li> </ul>
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。関心をもって積極的に予習・復習や情報収集を行ってください。

## 令和2年度 シラバス

科目名	<b>簿記入門 I</b>	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			経済学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	くにい のりお	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	國井法夫	実務家教員 担当科目		修得単位	4単位
授業のテーマ	日商簿記3級の範囲をわかりやすく説明するとともに、問題演習を行う。				
到達目標	日商簿記3級合格				
授業概要	普通科出身の学生にもわかりやすく解説して行く。				
授業計画					
第1回	簿記の意味・目的・種類	第17回	売掛金と買掛金(2)	買掛金とは その処理	
第2回	簿記の基礎概念(1) 資産・負債・資本について	第18回	その他の債権と債務(1)	貸付金・手形貸付金等の処理	
第3回	簿記の基礎概念(2) 費用と収益について	第19回	その他の債権と債務(2)	未収金・未払金等の処理	
第4回	取引と勘定と仕訳(1) 経済取引を仕訳にする	第20回	手形(1)	手形とは	
第5回	取引と勘定と仕訳(2) 経済取引を仕訳にする	第21回	手形(2)	手形の処理方法	
第6回	帳簿の記入 帳簿への記入方法	第22回	有価証券・固定資産		
第7回	決算と財務諸表(1) 貸借対照表について	第23回	減価償却	減価償却とは その処理方法	
第8回	決算と財務諸表(2) 損益計算表について	第24回	資本金と引出金	処理方法について	
第9回	現金預金取引(1) 現金等の処理	第25回	試算表の作成	仕訳から総勘定元帳への転記の確認	
第10回	確認小テスト	第26回	税金、帳簿と伝票	3伝票制の処理について	
第11回	現金預金取引(2) 当座預金の処理	第27回	決算と財務諸表	決算手続きについて	
第12回	現金預金取引(3) 当座・当座買い越しについて	第28回	決算と財務諸表	売上原価の計算とその処理について	
第13回	商品売買(1) 分記法	第29回	決算と財務諸表	費用収益の繰延べと見越し等	
第14回	商品売買(2) 3分法について	第30回	精算表等の作成		
第15回	売掛金と買掛金(1) 売掛金とは その処理	第31回	後期定期試験		
第16回	前期定期試験	第32回			
授業時間外の学習	復習と問題演習				
履修条件 受講のルール	欠席しない。授業は静かに聞くこと。				
テキスト	中央経済社 3級商業簿記 (2020年度版)				
参考文献・資料					
成績評価の方法	試験の得点 (60%)・レポート提出 (10%)・学習態度 (30%) 等で総合評価します。				
オフィスアワー	金曜日 5時間目				
成績評価の基準	平成28年度 (2016) 以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度 (2015) 以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)				
実務経験及び実務を活かした授					

業内容	
学生への メッセージ	真面目な授業態度・欠席しない学生を希望します。

## 令和2年度 シラバス

科目名	東西文化論	科目分類	□専門科目群 (第1グループ) ■総合科目群 (第2グループ)		
			全学科	□必修	■選択
			学科	□必修	□選択
英文表記	Study the Culture of Europe and Asia	開講年次	■1年 ■2年 ■3年 ■4年		
ふりがな	はなだ ふじお	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中		
担当者名	花田 富二夫	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	東西文化論として今年度は演劇を対象として両地域文化の特性を考える。				
到達目標	オペラと歌舞伎の共通点、相違点を検証しながら、演劇を通じた両文化論を構築できるか。				
授業概要	ヨーロッパの演劇の代表であるオペラと日本の代表である歌舞伎を取り上げ、両方の発展を跡付ける。				
授業計画					
第1回	オペラと歌舞伎の発生について (1)				
第2回	オペラと歌舞伎の発生について (2)				
第3回	オペラと歌舞伎の役者について一特に女形、カステラート				
第4回	オペラと歌舞伎のドラマツルギーについて (1)				
第5回	オペラと歌舞伎のドラマツルギーについて (2)				
第6回	オペラと歌舞伎の隆盛について (1)				
第7回	オペラと歌舞伎の隆盛について (2)				
第8回	オペラと歌舞伎のフィナーレについて				
第9回	歌舞伎鑑賞 (1)				
第10回	歌舞伎鑑賞 (2)				
第11回	歌舞伎鑑賞 (3)				
第12回	歌舞伎鑑賞 (4)				
第13回	歌舞伎鑑賞 (5)				
第14回	歌舞伎鑑賞 (6)				
第15回	歌舞伎鑑賞 (7)				
第16回	定期試験				
授業時間外の 学習	植民地などの世界歴史の概要などを学び、わが国の江戸時代以後の歴史にも目を配ってもらいたい。				
履修条件 受講のルール	特になし。				
テキスト	毎回プリントにて行う。				
参考文献・資料	授業時に紹介する。				
成績評価の方法	受講態度、鑑賞文及び定期試験の成績を総合して判定する。				
オフィスアワー	授業時間後				
成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生				

	<p>優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)</p> <p>出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。</p>
<p>実務経験及び実務を活かした授業内容</p>	
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>授業規律を守ること。</p> <p>文化・演劇に興味をもって臨んで欲しい。</p>

# 令和2年度 シラバス

科目名	<b>民法総則</b>	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			法律学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			国際観光学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Civil Law (general part)	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	さとう かつえ	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	佐藤 克枝	実務家教員 担当科目	○	修得単位	4単位
授業のテーマ	民法の基本原理や全体構造について学ぶとともに、民法全体に共通する事項を理解し、次年度以降に学習する物権法、債権総論、債権各論、親族・相続法履修の基礎を習得する。				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を習得できます。 1. 総則の条文を素早く引くことができ、意味について概要を説明することができる。 2. 総則に関する事例について、結論を理由をつけて説明することができる。 3. 民法の基本原理について概要を説明できる。 4. 法律行為について具体例を挙げて説明できる。				
授業概要	民法総則は、今後学んでいく民法全体に共通して適用されるルールです。共通ルールという性質上、抽象的な概念が出てきますが、本講義では、先ず民法とは何かを確認したのち、民法全体を概観して、可能な限り具体例を示しながら民法総則を学んでいきます。				
<b>授業計画</b>					
第1回	ガイダンス	第17回	代理(1)代理の基本構造①		
第2回	民法の対象範囲・民法典の概要	第18回	代理(2)代理の基本構造②		
第3回	民法の特徴—私的自治の原則	第19回	代理(3)無権代理と表見代理①		
第4回	民法総則の性質と学習の順序	第20回	代理(4)無権代理と表見代理②		
第5回	債権法の概観・契約法の重点学習	第21回	代理(5)無権代理と表見代理③		
第6回	不法行為法の重点学習・債権総論の概観	第22回	無効・取消し(1)総説		
第7回	物権法の概観	第23回	無効・取消し(2)効果・追認		
第8回	家族法の概観	第24回	条件・期限		
第9回	意思表示と法律行為	第25回	住所・失踪		
第10回	意思表示総論	第26回	時効(1)総説・期間の計算		
第11回	意思表示各論(1)心裡留保	第27回	時効(2)更新と完成猶予・援用		
第12回	意思表示各論(2)虚偽表示	第28回	時効(3)例題研究		
第13回	意思表示各論(3)錯誤	第29回	法人		
第14回	意思表示各論(4)詐欺・強迫	第30回	後半のまとめ		
第15回	意思表示の効力	第31回	定期試験		
第16回	前半のまとめ・中間試験				
授業時間外の学習	1. 授業前には教科書の該当箇所必ず目を通してください。分からない用語は調べてノートにまとめておいてください。(2時間程度) 2. 単元毎に、前回講義内容の確認(まとめチェック)を行います。講義の復習をしっかりと行ってください。(2時間程度)				
履修条件 受講のルール	法律事例研究Ⅰの単位を修得済みであることを前提に講義を進めます。 教科書を必ず購入してください。また、適宜資料を配布しますが、事前に連絡がなく欠席した学生には原則として配布しませんので、友人同士でコピーしてください。講義の際は、前回までに配布した資料を必ず持参して下さい。				
テキスト	尾島茂樹『民法総則』中央経済社				

参考文献・資料	池田真朗『スタートライン民法総論 (第3版)』日本評論社、原田昌和ほか『民法総則』(日本評論社)、平野裕之『コア・テキスト民法I 民法総則 (第2版)』(新世社)、大村敦志『新基本民法第2版1 総則編』(有斐閣)、佐久間毅『民法の基礎1 総則 (第4版)』(有斐閣)、内田貴『民法I 総則・物権総論 (第4版)』(東京大学出版会)、角紀代恵『コンパクト民法I 民法総則・物権法総論 (第2版)』新世社、中田邦博ほか『新ブリエール民法1 民法入門・総則 (第2版)』法律文化社 原田昌和ほか『民法①総則 判例30!』(有斐閣)
成績評価の方法	【試験 (中間40%、期末40%)、受講態度20%】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。
オフィスアワー	火曜日14:40~16:10・水曜日14:40~16:10
成績評価の基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	私は公務員として法務業務に携わり、コンプライアンスのほか、訴訟も担当しました。この授業をとおして、民法の基本の考え方が、実務の場面でどのように用いられるのかについても話したいと思います。
学生へのメッセージ	総則では、民法全体にかかわる原則を学習します。具体例をイメージしながら学習を進めましょう。わからないことは積極的に質問して下さい。



## 令和2年度 シラバス

科目名	<b>刑法総論</b>	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			法律学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
			学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Criminal Law (general part)	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	あきやま えいいち	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	秋山 栄一	実務家教員 担当科目		修得単位	4 単位
授業のテーマ	犯罪論の基本的理解による体系的思考の構築を目指す。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日ごろ、マスコミなどによって報道される刑事事件、事故をはじめとした社会の事象を刑法学的観点から考えることができる。</li> <li>・犯罪成立要件の概要を体系的に理解する、事実を法律要件に当てはめて思考できる。</li> <li>・その他、物事を論理的に考えることができる。</li> </ul>				
授業概要	<p>犯罪と刑罰に関する法律である刑法は、私達の日常生活に密接にかかわっている。刑法は身近な存在でなければならない。市民に理解された行為規範として機能すべきである刑法は、その理論性、思想性を前提とした学説の対立の激しさの故に、敬遠されがちでもある。そこで、本講義では、基本用語の理解から刑法の機能や犯罪の理論的把握、刑罰の根拠などの基本的問題について理解しやすくするために、判例の動向や事例を活用して段階的に体系的に議論を進めていく。講義の進行方式としては、単元ごとの講義レジュメを使用し、その流れに従っていく予定である。また、学生の理解度にも配慮していく。それ故、必ずしも指定のテキスト及び本シラバスの順序に従うとは限らないことがあることをお断りしておく。</p>				
<b>授業計画</b>					
第1回	講義ガイダンス 刑法を学ぶ前提としての基本概念の理解	第17回	責任② 責任能力		
第2回	刑法及び刑法学の概念 法の意義・規範、機能	第18回	責任③ 責任故意・過失と違法性の意識、違法性の錯誤		
第3回	刑法及び刑法理論 刑法思想・学説史	第19回	責任④ 期待可能性		
第4回	刑法の基本主義 罪刑法定主義・責任主義等	第20回	修正された構成要件該当性① 未遂犯 (障害未遂)		
第5回	犯罪論の基礎と体系 構成要件の意義と機能	第21回	修正された構成要件該当性② 中止犯・不能犯		
第6回	基本的構成要件該当性① 実行行為とその諸問題	第22回	修正された構成要件該当性③ 共犯論の基礎、共同正犯		
第7回	基本的構成要件該当性② 因果関係	第23回	修正された構成要件該当性④ 教唆犯・従犯		
第8回	基本的構成要件該当性③ 構成要件の故意・過失	第24回	修正された構成要件該当性⑤ 共犯をめぐる諸問題		
第9回	基本的構成要件該当性④ 事実の錯誤	第25回	小括		
第10回	違法性の本質	第26回	罪数論		
第11回	違法性阻却事由① 正当防衛	第27回	刑罰論の本質		
第12回	違法性阻却事由② 緊急避難	第28回	刑の種類、刑の量定、執行		
第13回	違法性阻却事由③ 正当行為	第29回	後半の総括		
第14回	違法性をめぐる諸問題	第30回	全体の総括		

第15回	前半の総括	第31回	定期試験
第16回	責任① 責任論の本質と構造		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、指定されたテキストを一度は必ず一通り読む。それを踏まえ、次回の講義の単元を読み、理解に努め講義に臨むこと（1.5時間程度）。</li> <li>・毎回の講義の復習を行うこと（1.5時間程度）。</li> <li>・日頃から、新聞やニュースなどの報道に触れることによって日々の刑事事件等の報道に関心を持ち、社会の出来事に目を向け、耳を傾けること。</li> </ul>		
履修条件 受講のルール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の「法律必修科目」（「法律事例研究Ⅰ」或いは「憲法入門」、「民法入門」、「刑法入門」など）、「法律事例研究Ⅱ」及び「刑法各論」を履修済であることが望ましい。</li> <li>・指定テキストを購入すること。</li> <li>・記載の通り、単元ごとにレジュメを配布する予定であるが、欠席等で受け取ることができなかったときは、秋山研究室に自身で受け取りにくる或いは友人からコピーしてもらうこと。</li> </ul>		
テキスト	井田良『入門刑法学・総論〔第2版〕』有斐閣 2018		
参考文献・資料	<p>例えば、井田良『講義刑法学・総論〔第2版〕』有斐閣・2018、同『入門刑法学・各論〔第2版〕』有斐閣・2018、大塚仁『刑法概説（総論）〔第4版〕』有斐閣・2008、町野朔『刑法総論（法律学の森）』信山社・2020、曾根威彦『刑法原論』成文堂・2016、小林憲太郎『刑法総論の理論と実務』判例時報社・2018、その他講義内で適宜紹介する。</p>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 70%、小テスト・レポート等 20%、授業態度等 10%の割合で、厳正に評価する。</li> <li>・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。</li> <li>・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とする。</li> <li>・授業中に無許可で退出した場合は欠席とする。</li> <li>・授業の理解及び予習復習が充分であるかを確認するため、授業中に小テストを行う予定である。</li> <li>・レポート課題がある場合には、授業内又は掲示板で指示する。</li> </ul>		
オフィスアワー	<p>原則として、月曜日 13:00～14:30、水曜日 14:40～16:10  ※ 事前に連絡をもらえるとありがたい。その他時間が空いていれば適宜対応する。</p>		
成績評価の基準	<p>平成 28 年度（2016）以降入学した学生  秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)  平成 27 年度（2015）以前に入学した学生  優(100～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)</p>		
実務経験及び実務を活かした授業内容			
学生へのメッセージ	指定テキスト・最新の六法・ノート・講義レジュメを必携のこと、また積極的な講義参加を望む。		

## 令和2年度 シラバス

科目名	人 権	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群(第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群(第2グループ)		
			法律学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
			国際観光学科	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
英文表記	Human right	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	わたべ たかあき	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	渡部 高明	実務家教員 担当科目		修得単位	4単位
授業のテーマ	憲法は、国民の誰もが大枠を知っておく意義ある、国の基本法です。 日本国憲法における、人権の意義と憲法条文の解釈、および憲法判例の理解をテーマとします。				
到達目標	憲法の存在意義と人権の必要性、具体的な裁判事例を理解することができる。				
授業概要	憲法の意義、日本国憲法の成立と展開、人権規定の内容と判例を、とりわけ戦後の憲法学をリードしてきた芦部信喜教授のテキストを中心に理解することで、現代人権論の基本的考え方を学ぶ。				
授業計画					
第1回	憲法学とは何か	第17回	信教の自由		
第2回	憲法と立憲主義	第18回	学問の自由		
第3回	立憲的憲法の特徴	第19回	表現の自由 I		
第4回	大日本国憲法と日本国憲法	第20回	表現の自由 II		
第5回	日本国憲法の成立過程	第21回	集会結社の自由・通信の秘密		
第6回	人権宣言の歴史、人権の観念	第22回	経済的自由権 I		
第7回	人権の内容、人権の享有主体	第23回	経済的自由権 II		
第8回	人権の限界—公共の福祉	第24回	人身の自由 I		
第9回	二重の基準論、特別権力関係	第25回	人身の自由 II		
第10回	私人間の人権保障	第26回	生存権		
第11回	個人の尊厳と幸福追求権	第27回	国務請求権、参政権		
第12回	法の下での平等 I	第28回	教育をうける権利		
第13回	法の下での平等 II	第29回	労働基本権 I		
第14回	思想良心の自由	第30回	労働基本権 II		
第15回	振り返り学習	第31回	振り返り学習		
第16回	前期定期試験	第32回	後期定期試験		
授業時間外の学習	まずテキストを1回の授業分は読んでください。そして、単に講義を聴くだけでなく、自ら事件や裁判例を通して、人権の諸問題と解決策を考えましょう。従って、具体的判例へのレポートを求めることがあります。また、毎日の新聞・ニュースに目を通すことをすすめます。				
履修条件 受講のルール	法律事例研究I、統治機構を履修していることが望ましい。				
テキスト	芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第七版』(岩波書店)				
参考文献・資料	憲法判例(実務教育出版)				
成績評価の方法	試験(80%)、提出物(10%)、毎回のコメントシート(10%) 出席回数規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けられません。				
オフィスアワー	毎週木曜日4限目と金曜日2時限目				
成績評価の基準	秀(100~90) 優(89~80点)、良(79~60点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)				

実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	憲法の存在意味と現実性を考えていきましょう。

## 令和2年度 シラバス

科目名	観光論入門Ⅱ	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			国際観光学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Introduction to Tourism Theory II	開講年次	<input checked="" type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	いのうえ ひろし	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	井上 寛	実務家教員 担当科目		修得単位	2単位
授業のテーマ	「観光」のキーワードを学ぼう				
到達目標	1. 観光学とはどのような学問なのか全体的に理解できるようになる 2. 観光学のキーワードを理解し、自分の言葉で説明できるようになる。				
授業概要	観光論入門Ⅰに引き続き、観光について専門的に学ぶ科目です。これから4年間観光を学ぶ上で必要な知識や考え方を学びます。特に、最新の観光について学ぶことを重視しますので、新聞やニュースの出来事を講義でも取り入れていきます。				
授業計画					
第1回	新しいツーリズムの形態1—エコツーリズム・グリーンツーリズム・ヘルスツーリズム				
第2回	新しいツーリズムの形態2—コンテンツツーリズム・フードツーリズム				
第3回	新しいツーリズムの形態3—ダークツーリズム・ユニバーサルツーリズム				
第4回	観光行動と情報				
第5回	効果的な観光情報の発信・提供方法				
第6回	観光産業の定義と種類				
第7回	観光産業・観光ビジネスの特徴				
第8回	旅行業の商品と形態				
第9回	旅行業と地域の関わり				
第10回	宿泊産業の歴史と発展				
第11回	観光と交通の関わり				
第12回	観光交通への新たな要請				
第13回	様々な観光ビジネス				
第14回	マーケティングと観光への応用				
第15回	復習				
第16回	定期試験				

<p>授業時間外の学習</p>	<p>&lt;予習&gt; 授業終了時に次回のキーワードを紹介しますので、教科書、参考文献、WEBサイトなどを活用し、予習をしてください。(90分程度)</p> <p>&lt;復習&gt; ノートを確認し、テキストのself checkを使用し復習をしてください。(90分程度)</p> <p>&lt;その他&gt; 新聞やテレビ、インターネットには「観光」の話題が豊富です。常日頃より観光のニュースに関心を持って生活してください。(30分程度)</p>
<p>履修条件 受講のルール</p>	<p>観光を学ぶ上での基本となりますので、国際観光学科1年生は観光論入門Ⅰ(前期)と併せてこの科目を受講してください。なお、毎時間参考資料を印刷したA4サイズのノートを配布しますので、バインダーを用意してください。</p>
<p>テキスト</p>	<p>JTB能力開発『観光学基礎—観光学入門のための14章』(第8版) 2019年 (2,260円+税)</p>
<p>参考文献・資料</p>	<p>週刊「観光経済新聞」観光経済新聞社 ※図書館1階にあります 観光庁 <a href="http://www.mlit.go.jp/kankocho">http://www.mlit.go.jp/kankocho</a> 日本政府観光局(JNTO) <a href="http://www.jnto.go.jp">http://www.jnto.go.jp</a></p>
<p>成績評価の方法</p>	<p>①定期試験(50%)…知識を問う問題と論述問題を課します ②レポート課題(20%)…パソコンで作成し提出してもらいます。正当な理由なく提出期限を守らなかった場合は加点しません。 ③小レポート(15%)…毎時間出席カードの裏面に書いてもらいます。なお、課題に対して満足に解答する姿勢が見られない場合は、加点しない場合があります。 ④取り組み姿勢(15%)…遅刻、マナー違反(私語・携帯操作・途中無断退席など)は加点しないほか、悪質な場合は欠席扱いとします。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、期末試験を受けることができません。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日 2時限(10:40~12:10) 毎週金曜日 3時限(13:00~14:30)</p>
<p>成績評価の基準</p>	<p>平成28(2016)年度以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27(2015)年度以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)</p>
<p>実務経験及び実務を活かした授業内容</p>	
<p>学生へのメッセージ</p>	<p>2020年東京オリンピック・パラリンピックをひかえ、政府は訪日外国人観光客数を4000万人にする目標を立てました。外国人観光客がたくさん日本に来て「お金儲け」ができれば、私たちは本当に幸せになれるのでしょうか?新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行したいま、日本の観光はどのように進むべきかを考える時期にきています。私たちはどのようにこの問題を解決すればよいのでしょうか。観光論を学ぶことにより、そのヒントが見つかるかもしれません。</p>

## 令和2年度 シラバス

科目名	観光と民俗	科目分類	<input checked="" type="checkbox"/> 専門科目群 (第1グループ) <input type="checkbox"/> 総合科目群 (第2グループ)		
			国際観光学科	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
英文表記	Tourism and Folklore	開講年次	<input type="checkbox"/> 1年 <input type="checkbox"/> 2年 <input checked="" type="checkbox"/> 3年 <input type="checkbox"/> 4年		
ふりがな	かまだゆきお	開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中		
担当者名	鎌田幸男	実務家教員 担当科目	○	修得単位	2単位
授業のテーマ	観光とは具体的にどのようなことか。観光に民俗が果たす役割とは何か。				
到達目標	観光客は民俗文化（伝統芸能や生活文化）に何を求めているかを知る。民俗文化財とは何かがわかる。				
授業概要	観光は現代社会の大きな潮流となっている。民俗は暮らしの文化であるが、もともと観光の対象ではない。近年観光客の関心は伝統的な民俗文化に向いている。世界文化遺産に登録されたものも少なくない。本講義では、「暮らしの文化」と観光資源化の関り、また民俗は観光化によりどのような影響を受けるかを考える。また地域おこしの課題にも触れる。				
no					
第1回	オリエンテーション、講義の概要についての説明				
第2回	観光とは何か、語源と定義を考える				
第3回	観光客の見学希望 (1) 自然、景勝地				
第4回	観光客の見学希望 (2) 博物館、美術館、資料館など				
第5回	観光客の見学希望 (3) 大日堂舞楽、曳山行事、来訪神				
第6回	観光客が伝統的な民俗行事の見学に関心を示すのはなぜか				
第7回	民俗文化財とはどのようなものか (1) 有形民俗文化財				
第8回	民俗文化財とはどのようなものか (2) 無形民俗文化財				
第9回	民俗文化財と観光資源化との関わり (20分ほどの小テストをする)				
第10回	世界文化遺産とは (1)				
第11回	世界文化遺産とは (2) ユネスコの無形文化遺産のこと				
第12回	観光は地域民にどのような影響を及ぼすか (1) 積極的な考え方				
第13回	観光は地域民にどのような影響を及ぼすか (2) 消極的な考え方				
第14回	観光は地域民にどのような影響を及ぼすか (3) 地域おこしの考え方				
第15回	観光と民俗文化と地域の課題				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	その民俗が行なわれている場所を知る。博物館や民俗館の見学をする。				
履修条件 受講のルール	観光や民俗文化財に関心を持ち調べておく。				
テキスト	適宜資料を配布する。無断欠席した学生には配布をしない。				
参考文献・資料	講義のときに紹介する。				
成績評価の方法	① 定期試験 (60%) ②小テスト (20%) ③レポート (20%) ①②③の総合評価とする。				
オフィスアワー	① 火曜日 (14:40~16:10) ②これ以外の場合は事前に連絡すること。				

成績評価基準	平成28年度(2016)以降入学した学生 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 平成27年度(2015)以前に入学した学生 優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	関心のある地域や民俗行事見学の旅行プランを立ててみる。